

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区麻布台一丁目3-1

為替週間展望＝ドル円は上値を追う動きか

〔10月5日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日） 9月28日～10月2日					
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	157.28	158.45(1)	156.38(30)	157.87	+0.59
ユーロ・ドル	1.1381	1.1395(28)	1.1215(1)	1.1254	-0.0137
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	68,309.46	+1945.26	日本10年債利回り	3.093	+0.010
ダウ平均株価	50,926.56	-902.06	米10年債利回り	5.241	+0.080
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 5日 ※臨時国会召集 高市首相の所信表明演説
 - 独9月サービス業PMI 確報値
 - ユーロ圏9月サービス業PMI 確報値
 - 英9月サービス業PMI 確報値
 - ユーロ圏8月生産者物価指数
 - 米9月サービス業PMI 確報値
 - 米9月ISM非製造業景況指数
- 6日 植田日銀総裁、片山財務相 全国証券大会であいさつ
 - 独8月製造業受注指数
 - スイス9月雇用統計
 - ユーロ圏8月小売売上高指数
 - 米8月貿易収支
 - カナダ8月貿易収支
 - カナダ9月Ivey購買部協会指数
- 7日 日本8月景気動向指数速報値
 - 独8月鉱工業生産指数
 - 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨
- 8日 日銀支店長会議（さくらレポート）
 - 日本8月経常収支
 - 独8月貿易収支
 - 米新規失業保険申請件数
- 9日 日本8月勤労者世帯家計調査
 - カナダ9月雇用統計
 - 米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】原油高が米長期金利の上昇につながり、ドルの支援材料となっている。今後の一連の経済指標で米国経済の堅調さが確認できるようなら、一段とドル買いの動きが進む見通しと指摘した。ドル円は一時159円台に乗せるなど、徐々に上値を伸ばしており、今後も堅調な流れが見込まれる。ただ、介入警戒感から上値を抑えられやすくなるとした。

【ドル円は156円台へ下落後に158円台へ戻す】

9月25日から10月2日にかけては、日米政府の円安牽制により、156円台前半まで下落した後、日銀の早期利上げ警戒の後退、原油高、米長期金利の上昇により、158円台半ばまで戻りを見せた。

9月25日（159円手前 → 157円割れ）： 日米首脳会談でトランプ大統領

が円安への懸念を示したと報じられたことや、日米財務相電話会談で「強固なファンダメンタルズを反映した強い円が望ましい」「過小評価は問題」との認識が共有されたことで、口先介入への警戒から大きく値崩れした。

9月28日～29日（157円台後半 → 156.50近辺 → 157円台後半）：三村財務官の「高市首相、片山財務相、米国からのメッセージは非常にクリアなもの、市場が素直に受け止めてくれればいい」との発言報じられ、日米両国の円安けん制姿勢への警戒感から円買いが強まった。一時156.50近辺まで下落。その後は下げ止まった。

9月30日（157円台半ば → 156.30台 → 157円台半ば）：午前中に円安牽制を意識した売りが加速し、156.30台まで下落。しかしNY市場では米GDP確報値など景気指標の堅調さから米長期金利が上昇し、157円台半ばへ戻りを見せた。

10月1日（157円台前半 → 158円台半ば → 158円を挟んでの振幅）：日銀会合の「主な意見」公表を受け、追加利上げの示唆があったものの、利上げ加速を後押しするような内容ではないことが円売りにつながった。また、内閣府から利上げにくぎを刺す意見が出たことで早期利上げ警戒が後退し、大きくドル高円安が進んだ。NY市場で157.20台まで下落する場面もあったが、原油高などを背景に再び158円台を回復した。

10月2日（158円近辺で振幅）：午前8時半に発表された9月の東京都区部消費者物価指数が市場予想を上回ったことなどから円買いの動きに傾き、一時157.70台まで下落したものの、すぐに158円台を回復するなど、底堅い動きとなった。

【FOMC議事要旨などに注目】

10月5日～10月9日の週に予定される日米の経済指標やイベントとしては、5日の米9月サービス業PMI確報値や米9月ISM非製造業景況指数、6日の米8月貿易収支、7日の日本8月景気動向指数速報値、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨、8日の日本8月経常収支、米新規失業保険申請件数、9日の日本8月勤労者世帯家計調査、米10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

7日には9月15～16日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨が発表される。この会合では12対ゼロの全会一致で政策金利を0.25%引き上げて、3.75～4.00%にすることを決定した。今後の利上げペースに関するヒントなどが出てくるかが注目される。

その後の原油高や米長期金利の上昇を背景に、年内にあと1～2回の利上げが見込まれている。次回10月27～28日のFOMCでの利上げ確率は35%前後となっているほか、12月のFOMCまでに1回ないし2回の利上げが行われる確率は90%前後となっている。

30日発表の8月の米個人消費支出（PCE）価格指数が市場予想を下回り、一時ややドル売りに傾く場面もあった。ただ、9月の米ADP雇用者数は市場予想を上回り、米第2四半期GDP確報値や個人消費確報値はいずれも市場予想を上回る結果となった。米経済指標は堅調なものが多く、PCE物価指数の下振れによるドル安の影響を相殺した。

PCE価格指数は予想を下回ったものの、前年比は+3.4%、コア前年比は+3.0%と高水準を維持している。NY原油が90ドル前後で高止まりする中、米10年債利回りは1日には一時5.34%前後まで上昇し、ドルの堅調さを支えている。

原油高によるインフレ懸念や米国経済の堅調さから、ドルは底堅い動きが見込まれる。一方で、日銀の利上げ継続への積極的な姿勢が感じられず、円売り圧力が根強いとみられる。こうした中、ドル円は上値を追う展開が続くと予想されるが、160円が視野に入ると介入警戒感から上値を抑えられそうだ。目先の予想レンジは156.00～160.50円。

【ユーロドルもポンドドルも上値の重い展開か】

ユーロドルはドルの堅調さを背景に下落トレンドが継続しており、10月1日には1.13ドルを割り込んだ。陰線で引ける日が多く、下向きで推移する5日移動平均線が抵抗となっており、さらに下値を探る展開が見込まれる。目先の予想レンジは1.1100～1.1370ドル。

ポンドドルは1.32ドル割れまで下落した後は安値圏でのみ合いが続いている。英中銀（BOE）による年内1～2回程度の利上げが見込まれていることから、年内1回程度の利上げを見込む欧州中央銀行（ECB）と比べてポンドの方がやや底堅い展開とみられる。ただ、ポンドドルもドルの堅調さを背景に、調整一巡後は再び下げに転じるとみられる。目先の予想レンジは1.3000～1.3300ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、5日の独9月サービス業PMI確報値、ユーロ圏9月サービス業PMI確報値、英9月サービス業PMI確報値、ユーロ圏8月生産者物価指数、6日の独8月製造業受注指数、ユーロ圏8月小売売上高指数、7日の独8月鉱工業生産指数、8日の独8月貿易収支、9日のカナダ9月雇用統計などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。